

2021 年度東京都市大学附属高等学校

卒業式式辞

2022 年 3 月 18 日

校長 皆川 勝

中学から高校への6年の課程を修了して、卒業されて旅立たれることに祝意を表します。たくさんの思い出が詰まった6年間だったのではないのでしょうか。これから、実社会とより近く、さらに深く、さらに広い活動へと、人生のステップを進めることとなります。

この人生の門出に際して、これまでの18年間と、これからの長い人生を送られるなかでの、創造することの価値、体験することの喜び、良心に基づいて態度を決めることの重要性についてお話をしたいと思います。

第一の創造することの価値とは、自分の意志に基づいて、自由に行動をすることにより、新しい何かを創り出す価値です。

創造には、芸術の創造、科学技術の創造、環境や社会の創造など、いろいろな創造があります。

皆さんのこれまでの学校生活は、先生方や友達との協働による、人づくりという創造であり、皆さんの未来の創造だったと思います。

部活動も自分たちの力で何かを達成しようとする創造でした。

歴史や先人の残した遺産などに学び、創造したものを未来に残してゆくことの価値は、だれも疑わないと思います。

自分の納得できるものが創造できた時、その喜びは特に大きいものがあります。また、結果的に苦勞が報われなかったとしても、創造に向かって努力をした、そのプロセスには大きな価値があります。

芸術を例に取れば、ゴッホの描いた絵画は、彼の生前は評価されませんでした。が、彼の死後に高く評価され、今日に至っています。

現代においてゴッホの生きたことの価値を疑う人はいないと思います。

それでは、彼の死後、その絵画が仮に評価されなかったとしたら、彼の人生は意味のないものだったのでしょうか。そんなことはないと思います。

卒業生の皆さんは、大学受験に挑戦されました。第一志望校に入学が決まった方も多くおられます。

学年全体としても、本校始まって以来の高い実績をあげられました。

個人としても、学年としても、目標を突破されたことは素晴らしいことであり、卒業生の皆さんと保護者の方々には敬意を表したいと思います。

また、第一志望校には合格できなかった方も、それに向けて努力をしたそのプロセス、同じように価値の高いものだと思います。

努力が今一歩であったと思っている方は、その反省と教訓を胸に、新たな次の一歩を歩んでいただきたいと思います。

すべての卒業生にとって、保護者の方々と先生方に支えられ、自分と向き合った6年間の学校生活は、新しい未来を創り出そうとする価値のある営みであったと思います。

創造しようとする活動は、創造したものの評価が第三者にとって高いか低いかに関わらず、価値を持つものであると思います。

卒業生の皆さんには、自分自身の自由な意志により、また、必要により周囲の方々と協力をして、より良い社会の実現に向かって創造するために行動してほしいと思います。

二つ目の体験することの価値とは、人を愛したり人から愛されたり、自然に触れたり、そういった何かを体験し喜びを感じることの価値です。

皆さんは学習、部活動、学校行事や日々の生活の中で、多くの方々と巡り合い、交友関係を深め、先生方と議論をし、保護者の方々と話し合い、さまざまな体験をしてきたと思います。

その中で、愛や友情を知り、自然の息吹を感じ、さまざまな文化に触れ、スポーツで体力の限界に挑戦してきたと思います。

その中には、勉強がうまく進まない、スポーツでうまく技を決められない、思うような絵が描けない等など、今思えば苦しい体験もあったと思います。

それが人生の価値だと考えたことはないかもしれません。

しかし、それらの体験もまた、皆さんの生きている意味であり、価値であります。

耐えがたい苦痛の例としては、11 年前の東日本大震災の約 2 万人に及ぶ犠牲者の方々や原発事故で故郷を失った多くの方々、そして、今まさに他の国の侵略で虐げられ、被災され、亡くなられた方々などが思い浮かびます。

それぞれの体験は悲惨であり、できることなら避けたい苦しみであり、遺族などの関係者だけでなく世界中に大きな悲しみを残します。

もしそのような避けられない苦しみを受けることに価値がないとすれば、なんと悲しいことでしょうか。

しかし、そのような苦しみや痛みを受けた方々が生きたこと、理不尽にその生が絶たれた事実、悲惨な体験をされた事実は、人びとの心に記憶されます。

歴史に刻まれ、そのような悲惨な体験をふたたび繰り返してはならない、という人類の教訓として生きてゆきます。

皆さんが体験された苦しみや痛みも、それを乗り越える勇気を与えてくれたのではないのでしょうか。生きてゆく力を高めてくれたのではないのでしょうか。

三つ目の態度を決めることの重要性とは、自分の良心に基づいて態度を決めることの価値です。

人間は、自分の態度を決めるために、「良心」を用いることのできる唯一の動物であると言われます。

私たちは、時々自分の意志により、物事を進めたり、意見を表明したり、行動を起こすという自分の態度を決めています。

態度能力という言葉があります。

これは、知識とスキルという能力に対して第3の能力と言われるもので、人間性や人柄といったパーソナリティに結びついた能力であり、良心に基づいて、物事や人に対して、適切に向き合う態度をとる、そういった能力です。

卒業生の皆さんは、これから、大学生になり、社会人になってゆく過程で、いろいろと態度の選択を迫られることとなります。

そんな時、自分とまわりの人の命を大切にしつつ、自分の態度をやはり良心に従って決めてほしいと思います。

今、ウクライナの人びとは、創造する自由を奪われ、体験する楽しみも奪われ、
苦しみや痛みしかない状況が続いています。しかし、その中でも、祖国や家族
を守るために、自分自身がとるべき態度をそれぞれに決めています。

そのような態度を決める自由は、誰にも奪うことはできません。

このように、皆さんひとり一人の人生の瞬間、瞬間において、皆さんの人生は
創造すること、体験すること、そして態度を決めることにより、生きている意
味に満たされています。

そのような意味で、みなさんの人生は、唯一無二であります。

ここにいらっしゃる方々も含めて、すべての人は自分自身であって、自分以外
の人とは異なります。

すべての人が、年齢、通った学校、仕事、今の段階で知っているものの量、で
きることの幅などによらず、世の中でたった一人の、価値のある人間であるこ
とを忘れないでほしいと思います。

皆さんひとりひとりには、可能性が無限に広がる未来があります。

未来の自分や社会を考えながら、今年・今月・今週何をすべきかと考え、そして、今、何をすべきかを決めて実際に行動してほしいと思います。

これが、皆さん一人一人にとって、一生で一度しかない「今」という時間を大切にすることになります。

最後になりますが、皆さんが高校を卒業してその先の道を進み、成人し、社会人となり、そして自分の存在価値が自分でもより強く認識できるようになった時、もしも、本校での出会い、学び、体験などが、なにがしかの価値を持っていたとっていただけたら、学年団を中心とする、ここにおられるすべての先生方にとっても、得難い喜びとなると思っています。

あらためて、皆さんの人生が倖多いものとなることを祈念して、卒業式にあたっての校長式辞といたします。

以上